

Ⅲ. 2027年度 研究指導担当教員及び研究指導領域

体育科学、体育実践学、コーチング科学、コーチング実践学学位プログラム 博士前期課程

研究指導担当教員の表記内容		
★★	研究指導教員	研究指導を担当することができる
★	研究指導補助教員	研究指導教員とともに研究指導ができる

【注意事項】

出願前に必ずご自身の希望する研究指導教員、または研究指導補助教員と連絡を取り、担当教員とご自身の考えている研究内容を十分にご相談して下さい。事前の連絡を取らずに出願する事がないようにして下さい。

教員検索（大学HP 教員情報データベース）		研究者検索（国立研究開発法人科学技術振興機構）	
-----------------------	---	-------------------------	---

■体育科学学位プログラム、体育実践学学位プログラム（コース毎） （体育スポーツ文化社会学コース）

教員名	研究指導領域
★★ 教授 荻 浩三 修士（体育学）	研究分野：スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツ史、体育史、スポーツ地理学
	「スポーツ史」 ① 一般研究領域（一般史） 「スポーツ通史」「世界スポーツ史」「時代別スポーツ史」「地域別スポーツ史」、など ② 個別研究領域（特殊史） 「スポーツ競技種目史」「スポーツ思想・人物史」「スポーツ教育史」「スポーツ産業史」「スポーツ形態史」「スポーツ学説史」「スポーツ施設・用具史」「スポーツ技術史」など
★★ 教授 関根 正美 博士（体育科学）	研究分野：体育・スポーツ哲学
	研究内容のキーワード：体育・スポーツ哲学
	スポーツ哲学、体育哲学、スポーツ倫理学 ① オリンピックの思想 ② スポーツ指導者論 ③ スポーツと暴力 ④ スポーツ美学論、舞踊論 ⑤ ドーピング、フェアプレイ ⑥ 科学技術とスポーツなど。
★★ 教授 谷釜 尋徳 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツ史、運動文化史、遊戯史、身体技法、技術・戦術史、伝統芸能史、旅行史、武術・武道史、オリンピック史、バスケットボール史
	スポーツ史とは、スポーツに関わる今日的な問題点に端を発して、それを解決しようとする手掛かりを歴史的な世界に見出そうとする学問分野です。研究指導領域の一例は、以下の通りです。 ・スポーツの伝播／受容／普及の歴史 ・スポーツの技術／戦術の歴史 ・スポーツの修練（練習・稽古）／コーチングの歴史 ・スポーツの用具／施設／産業の歴史 ・スポーツの人物／ルール／制度／学説の歴史
★★ 教授 波多腰 克晃 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ哲学、体育哲学、スポーツ倫理
	研究内容のキーワード：体育・スポーツ思想・哲学、スポーツと共同体、スポーツと他者論
	体育・スポーツにおける共同体の形成、スポーツと他者論について研究しています。 ①ドイツのスポーツクラブ研究 ②スポーツの文化研究 ③スポーツと大衆化論 ④スポーツと暴力 ⑤オリンピックの思想 ⑥ドイツ体操・スポーツの思想など。

教員名	研究指導領域
★★ 教授 依田 充代 博士(スポーツ健康科学)	研究分野：体育・スポーツ社会学
	研究内容のキーワード：体育・スポーツ社会学
	スポーツ社会学
	スポーツ社会学はスポーツと社会の関わりを追及する学問です。また、スポーツの社会学的現象を明らかにし、そこに起きる問題の解決をめざした研究を展開する学問でもあります。研究領域は多岐にわたりますが、具体的にいくつかの研究領域を以下に紹介しておきます。 ① スポーツ社会学の内容と方法 ② スポーツと薬物 ③ スポーツと暴力 ④ 社会規範とスポーツ ⑤ スポーツと政治 ⑥ スポーツと経済 ⑦ スポーツと環境 ⑧ スポーツとマスメディア ⑨ 学社融合 ⑩ スポーツ・ボランティア ⑪ スポーツ情報学 ⑫ 地域スポーツ など。

(スポーツ国際コース)

教員名	研究指導領域
★★ 教授 金田 英子 博士 (医学)	研究分野：国際保健（文化・社会的文脈を含む）、国際学校保健、スポーツを手段とした健康支援研究
	研究内容のキーワード：スポーツ（手段）、健康、生活習慣、宗教と健康、文化と健康、社会と健康、学校、保健所、地域、村落、フィールドワーク、量的研究、混合研究、健康行動、国際協力、現場志向の実証研究
	国際保健・国際学校保健を基盤に、文化・社会的背景を踏まえた公衆衛生課題に対し、スポーツや運動を手段としてアプローチする実証研究を行います。スポーツはそれ自体を目的とするのではなく、健康行動の変容や人々の関係性、地域の実践を理解するための切り口として位置づけます。対象は学校、保健所、地域・村落などの現場で、人々が何を考え、どのように行動しているのかをデータに基づいて分析します。データはフィールド調査に加え、既存の二次資料の活用も可能で、社会人は自身の実務現場を研究対象とすることも歓迎します。量的研究または混合研究を中心とし、フィールド調査の経験がない人でも段階的に取り組めるよう指導します。
★★ 准教授 寺岡 英晋 博士 (教育学)	研究分野：スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：世界の学校体育、カリキュラム分析、教師行動、学習成果評価、異文化理解、国際協力
	スポーツおよび学校体育を対象に、教育学的視点から国際的な教育課題の解決に資する知見の創出を目指します。特に、異なる文化・制度的背景におけるカリキュラムや授業実践を比較し、教師行動や学習経験の質が学習成果や生涯にわたるスポーツ参与に及ぼす影響などを実証的に検討します。具体的には、以下のようなテーマが研究指導領域になります。 ・ スポーツを通じた国際協力・異文化理解の促進に関する研究 ・ 国際比較に基づくカリキュラム分析と授業改善 上記以外でも、教育学的研究で関連するキーワードに該当するテーマも歓迎します。
★★ 准教授 福井 元 修士 (体育科学)	研究分野：スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツの技術・戦術史、施設・用具史、野球史
	スポーツの用具・施設の変化により、ルール及び技術や戦術はどのように変化するかというテーマのもと、スポーツに携わった人のみが解読することができる、ゲームのスコア等を史料として、スポーツの技術史といわれる分野の研究に取り組んでいます。 他にも、野球に関する諸々の研究や、人物に関する研究も興味があります。

教員名	研究指導領域
★★ 准教授 松浪 登久馬 修士（体育科学）	研究分野：スポーツ人類学、スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツ人類学、民族スポーツ、伝統スポーツ、北米先住民族、球戯
	北米先住民族における伝統的な、あるいは民族的な「球戯」を研究対象としてきた。 一般に「球技」と称されるスポーツは、近代以降にルールが規格化・統一されたことで国際的な普及を遂げた。対して、先住民族の「球戯」は、ルールの共有範囲が地域限定的であり、その目的や用具の形態も極めて多様である。 このように、近代スポーツとしての「球技」と伝統的・民族的な「球戯」は、身体運動としては類似しながらも、その社会的・文化的文脈において質的に異なる存在である。両者を比較検討し、看過されがちな「球戯」の独自性に目を向けることは、人類の文化的多様性を理解（異文化理解）する上で不可欠な課題であると考えている。
★★ 教授 山口 和之 博士（Linguistics）	研究分野：認知科学、言語学、英語学、外国語教育
	研究内容のキーワード：認知言語学、言語と認知、類型論、言語の意味変化
	言語と認知・経験の関係を研究してきました。分野としては、認知言語学という、認知科学の一分野になります。具体的には、言語の意味変化、メタファー、言語や意味構造に反映される人間の一般認知能力や経験などです。
★★ 教授 山口 拓 博士（体育科学）	研究分野：ライフサイエンス、スポーツ人類学、応用人類学
	研究内容のキーワード：スポーツ国際開発学、民族・伝統スポーツ、東南アジア、質の高い体育、アクターネットワーク理論
	研究領域は多岐にわたりますが、具体的な研究テーマは以下の通りです。 【スポーツの価値を最大化してヒトや社会に役立てる研究】 ①スポーツと開発・援助、②スポーツとSDGs、③スポーツとマイノリティ、④身体運動文化の応用人類学 【スポーツを社会や文化との関わりから理解する研究】 ⑤植民地主義とスポーツ文化、⑥スポーツと観光・祭事、⑦運動部活動の役割・弊害、⑧スポーツと文化変容 研究では、部活動、地域スポーツ、身体運動文化、スポーツプログラムなどを対象に「人はなぜスポーツに関わるのか」「スポーツは人や社会にどのような影響を与えるのか」といった問いを探究し、現場に還元しています。現場のリアルな経験や意味を重視している点に特徴があります。
★★ 准教授 梁 凌詩Nancy 博士（国際関係学）	研究分野：社会学・国際関係学
	研究内容のキーワード：少子高齢化、国際関係、地域開発、ヘルシー・エイジング（健康な高齢化）
	少子高齢化、人口移動、都市開発といった社会構造の変化が、身体文化や健康政策に与える影響について国際比較の視点から研究指導を行います。特に、一帯一路構想やAIIBによるインフラ開発の中で、スポーツを含む教育機関の設立や、地域における社会統合・ソフトパワー戦略としての身体活動の位置づけに注目しています。さらに、ヘルシー・エイジングの観点から高齢者の身体活動や健康支援政策との関連も扱います。社会政策・国際関係・地域開発の文脈で、身体・スポーツ・健康をめぐる社会的課題の変容と可能性を探ることを主な指導領域としています。

(スポーツマネジメントコース)

教員名	研究指導領域
★★ 助教 清宮 孝文 博士（体育科学）	研究分野：スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：プロスポーツビジネス、スポーツ産業、スポーツマーケティング
	プロスポーツチームの経営戦略と、それが地域社会や経済に与える影響について研究しています。特に、観客の意識調査やスポーツボランティアの活動実態を定量的に分析することで、持続可能なスポーツビジネスのモデル構築や、スポーツを核とした地域活性化のメカニズム解明に取り組んでいます。主な研究テーマは以下の通りです。
	①プロスポーツを核とした地域社会の活性化と価値共創に関する研究 ②データサイエンスを用いたスポーツマーケティングと観客行動の定量分析
★★ 教授 小林 秀紹 博士（学術）	研究分野：スポーツマネジメント、スポーツアナリティクス
	研究内容のキーワード：動作分析、戦術分析、機械学習、データマイニング、ベイズ統計
	研究内容は主にスポーツアナリティクスです。アナリティクスとは、データを収集・分析し、それを基に意思決定を行うプロセスを指します。動作分析や戦略分析などのコーチングアナリティクスをはじめ、メディアアナリティクス、ビジネスアナリティクスなど、スポーツに関わる多様な現象を対象としています。特に、データドリブン、データを根拠とした意思決定や戦略策定を支援する分析手法の開発について、機械学習やベイズ統計を用いて取り組みます。
★★ 教授 齊藤 隆志 体育学修士	研究分野：スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：みるスポーツ、ファシリティマネジメント、イベントマネジメント
	スポーツマネジメント、スポーツ経営学
	①みるスポーツの研究（スポーツコンテンツプロデュース、観戦サービス、プロスポーツ経営） ②スポーツファシリティマネジメント（スタジアム・アリーナ運営、商業スポーツ施設） ③スポーツマーケティング（スポーツ消費者行動、スポーツプロダクト、ブランディング）など。
★★ 教授 齋藤 義信 博士(健康マネジメント学)	研究分野：スポーツ・身体活動の疫学、ヘルスプロモーション、健康スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：身体活動、疫学、公衆衛生、健康づくり、健康行動理論、エコロジカルモデル、身体活動支援環境、システムズ・アプローチ、普及と実装科学
	スポーツや身体活動を通じたヘルスプロモーションを計画・実践・評価・改善し、社会に普及・実装する「健康スポーツマネジメント」について研究します。主な研究テーマは以下の通りです。
	①安全で効果的なスポーツ・身体活動についての疫学研究 ②公衆衛生やヘルスプロモーションの観点から、スポーツ・身体活動を普及推進するための研究
★★ 准教授 佐野 昌行 博士（体育科学）	研究分野：スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：スポーツのマネジメント、スポーツのマーケティング、スポーツ文化
	文化としてのスポーツの推進（普及・振興）を志向し、スポーツ団体、スポーツチーム、大学スポーツ、スポーツイベント、スポーツ企業等におけるスポーツ組織のマネジメント、スポーツ実施者や観戦者のマーケティングなど、スポーツマネジメント領域における幅広い研究テーマを扱います。
★★ 教授 横田 匡俊 教育学修士	研究分野：スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：地域活性化、まちづくり、地域経済循環、経済効果、スポーツ産業、スポーツビジネス
	研究領域は、主に以下の二つです。
	①スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化に関する研究：地域にあるスポーツ資源を活用して、まちづくりや地域活性化をどのように推進するかを研究します。 ②スポーツ産業・スポーツビジネスに関する研究：社会や市場の動向、人々の志向性、政策動向等を分析した上で、スポーツ産業、スポーツビジネスの構造やビジネスモデルについて研究します。

教員名	研究指導領域
★★ 准教授 池田 祐介 博士（スポーツ医学）	研究分野： トレーニング科学・スポーツバイオメカニクス
	研究内容のキーワード： トレーニング科学、競技力向上、キネマティクス、キネティクス、パフォーマンス分析、レジスタンストレーニング
	競技パフォーマンスを向上させるためには、競技特性を明らかにした上で、競技に必要な要素をトレーニングによって戦略的に高めていく必要があります。本研究室では、スポーツバイオメカニクスや運動生理学の研究手法を用いて、競技に必要な技術や体力要素を分析し、得られた知見を基に効果的なトレーニング方法の開発に取り組んでいます。
	主な研究テーマは以下の通りです。
	① 自転車競技におけるペダリングパワー向上のためのトレーニング法の開発: 効果的なペダリング技術を研究し、パワー向上に繋がるトレーニング法を提案します。 ② 下肢の関節トルク、パワーが跳躍動作に及ぼす影響: 跳躍動作における関節トルクとパワーの役割を分析し、パフォーマンス向上のためのトレーニング指導を行います。 ③ 競泳のスタート動作に関する研究: スタート動作の技術向上を目指し、最適な動作パターンとトレーニング方法を探求します。 ④ 効果的なレジスタンストレーニング法の開発: 筋力強化とパフォーマンス向上を目指したレジスタンストレーニングの効果的な手法を開発します。 これらの研究を通じて、アスリートの競技力向上に貢献することを目指しています。

教員名	研究指導領域
★★ 教授 大石 健二 博士（体育科学）	研究分野：体育測定評価学、スポーツパフォーマンス分析、教育工学、情報工学
	研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス分析、ゲームパフォーマンス分析、戦術、戦略、統計学、確率論、評価項目（測定項目）の検討と開発、分析方法の検討と開発、ICT教育、STEAM教育、ウェアラブルデバイス、GIGAスクール、DX、子ども、幼児、家庭環境、社会環境、生活習慣、運動習慣、体力、運動能力
	主な研究テーマは、「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」、「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」と「子ども（主に幼児）を対象とした疫学研究」の3つになります。全研究領域共通として数値データを用い、統計学や確率論を基礎とした研究となります。 ①「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」 生体ウェアラブルデバイスや小型ビデオカメラの普及により、選手個人の移動（距離・速度）データや心拍数データに加え、パスやシュート等のスポーツパフォーマンスを簡単に数値化することが可能となりました。そのため、GPS データや画像データを用いスポーツを数値化し、勝敗と関連がある項目の検討や今後の試合予測が研究テーマとなります。これらの研究結果から、対象チームのトレーニング内容（課題）を考えます。現在、研究対象とするスポーツ種目の制限を設けてはいませんが、サッカー、ハンドボール、バレーボール、水球など球技種目を主としています。 ②「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」 令和6年度からの高等学校 DX 加速化推進事業により、高等学校における体育授業をはじめ部活動でのICT活用が飛躍的に拡大しています。ただ一方では、これまでの体育や部活動の実施方法を踏襲している学校も散見されます。このように、コロナ禍におけるGIGAスクール構想事業によりデバイスの普及は全国に及んだが、ICTの利用については学校間や地域間において格差が生じ始めています。そこで、本研究では高等学校 DX 加速化推進事業採択学校と共同し、STEAM教育コンテンツの開発ならびに体育をはじめとする部活動におけるICT活用による効果検証を実施します。これらの研究結果から、新しい体育授業や部活動における指導方法(コーチング方法)の提案をします。 ③「子ども（主に幼児）を対象とした疫学研究」 子どもの体力・運動能力または健康状態と生活習慣や生活環境との関連性について研究します。具体的には、幼児の25m 走、立ち幅とび、テニスボール投げ等の記録や運動の好き・嫌い、風邪や怪我の頻度をアウトカムとし、家庭環境（家族構成・住宅様式等）、生活習慣（起床時刻・習い事等）、施設内環境（保育所や幼稚園・学校間等）、地域間（都市部・農村部等）との関連性について疫学手法を用い検討する研究となります。また、子ども達の日常における身体活動強度や身体活動量を定量化することも研究テーマとしています。現在は、継続測定を実施し体力・運動能力の変化量（率）をアウトカムにした研究を実施しています。これらの研究結果から二極化が懸念されている子ども達の体力・運動能力向上の方策を考えます。
	研究分野：スポーツバイオメカニクス 研究内容のキーワード：キネマティクス（運動学）、キネティクス（動力学）、競技力向上、運動技能 科学的なアプローチによって、アスリートにおける競技力向上や運動初心者における運動技能の改善をねらいます。現在、主に以下の2つのテーマに取り組んでいます。 ① 高度なデバイス（光学式ハイスピードカメラ、地面反力計、慣性センサーなど）を用いた横断的・縦断的なスポーツ動作の測定・評価 ② 大衆化されたデバイス（スマートフォン、スマートウォッチなど）を用いた運動技能の測定・評価方法の開発 フィールドから実験室まで様々な場所で測定を行い、国際大会で優勝する選手から運動嫌いな子どもまで幅広い運動パフォーマンスの分析を行っています。世界中の研究機関とのネットワークを活用しながら、前例にとらわれずに、スポーツ科学、社会に貢献することを目指しています。
★★ 准教授 大塚 光雄 博士（スポーツ科学）	

教員名	研究指導領域
★★ 教授 岡本 孝信 博士（人間科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ生理学
	研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス、コンディショニング、トレーニング、競技力向上、リカバリー
	運動・スポーツ生理学を基盤として、効果的な運動トレーニング法の開発やアスリートの競技力向上とコンディショニングに資する実践的な研究を行います。スポーツ現場の疑問を科学で解明し、その結果をトレーニングやコンディショニングの実践に還元することを目指します。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 心血管系機能を指標としたコンディショニング法の開発 ② 運動・栄養・休養のタイミングがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響 ③ トレーニング効果を高めるポリフェノール摂取法の検討 ④ パフォーマンス向上を目指した機能性食品（クレアチン、グリコーゲンなど）の効果的なローディング法の開発 ⑤ 戦略的リカバリー法の構築
★★ 教授 菊池 直樹 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、スポーツ遺伝学
	研究内容のキーワード：ストレンクス&コンディショニング、スポーツ遺伝学、遺伝子多型、競技パフォーマンス、筋力トレーニング、高強度インターバルトレーニング、運動と健康
	スポーツ遺伝学およびストレンクス&コンディショニングに関わる諸研究を行う。エクササイズによる身体反応や損傷に対するリスクの個人差を解明することで個人対応型のトレーニングおよびコンディショニング方法の確立を目指します。 主な研究テーマは以下のとおりです。 1、エリートアスリートの遺伝特性に関する研究 2、怪我およびサプリメント摂取の感受性に関する遺伝特性の研究 3、遺伝子特性を考慮したトレーニング戦略の開発 4、ストレンクストレーニングの効果を最大化するトレーニング変数に関する研究 5、Velocity based training (VBT)および高強度インターバルトレーニングに関する研究 6、中高齢者へのトレーニング介入研究
★★ 教授 杉田 正明 博士（学術）	研究分野：トレーニング科学、体力科学
	研究内容のキーワード：競技力向上、トレーニング科学、体力科学、コンディショニング、パフォーマンス分析
	運動パフォーマンスを高めるトレーニングやコンディショニングに役立つ実践的なスポーツ科学的研究を行っている。 ① スポーツ科学的手法を用いた競技スポーツ選手の競技力向上及び科学的支援に関する研究 ② 競技スポーツ選手を対象としたコンディショニングに関する研究 ③ 体力科学的見地からのトレーニング方法（含・高地トレーニング、低酸素トレーニング）に関する研究 ④ 競技選手のパフォーマンス分析に関する研究

教員名	研究指導領域
★★ 教授 須永 美歌子 博士（医学）	研究分野：運動生理学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：月経周期、女性アスリート、コンディショニング、性差、エネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝）
	健康なからだを維持しながらパフォーマンスを向上させるためには、戦略的にトレーニングプログラムを構築し、コンディショニング方策を立てる必要があります。本研究室では、ヒトを対象にトレーニングや栄養摂取などの条件の違いが運動パフォーマンスやトレーニング効果に与える影響について運動生理学的手法を用いて分析し、スポーツ現場に還元することを目指して研究に取り組んでいます。特に性差や月経周期の影響に着目し、以下のような研究を行っています。
	① 月経周期を考慮したコンディショニング法の開発 ② 女性の形態的・生理的特性を考慮したトレーニングプログラムの検討 ③ 「女性アスリートの三主徴」の予防・改善に関する研究
★★ 准教授 高井 秀明 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ心理学
	研究内容のキーワード：競技スポーツ、アスリート、ストレス、情報処理過程、心臓自律神経活動
	スポーツ心理学に関する基礎的研究を進めており、ヒトの身体活動に伴う情報処理過程や心臓自律神経活動を中心に検討しています。特に、競技スポーツにおけるストレス状況下でのアスリートの心理・生理的反応について明らかにすることを研究課題としています。
★★ 教授 西山 哲成 博士（医学）	研究分野：トレーニング科学、バイオメカニクス、コーチング科学、ハイパフォーマンスサポート
	研究内容のキーワード：パフォーマンス向上、バイオメカニクス、生理学、技術・体力評価、科学サポート、ハイパフォーマンスサポート、コーチング、スポーツ支援システム、自転車競技
	① スポーツパフォーマンスを高めるための技術、体力評価、およびそのトレーニング、コーチング方法に関する研究を扱う。
	② バイオメカニクス、および生理学的手法による科学サポート、指導に役立つ基礎的・実践的研究を対象とする。
★★ 教授 黄 仁官 博士（体育科学）	③ 指導またはサポート対象となる集団・個人のパフォーマンス向上を目的として、コーチング、医・科学支援、組織運営等を統合したスポーツ支援システムの構築および実践に関する研究を扱う。
	研究分野：トレーニング科学、体力学、運動処方
	研究内容のキーワード：トレーニング科学、競技力向上サポート、運動処方と運動療法、加齢・老化、スポーツ遺伝子
★★ 教授 三村 覚 博士（心理学）	研究のキーワードは、① アスリートの競技力向上に及ぼす体力の影響、② 高齢者の介護予防を目的とした体力、③ 子どもの発育・発達と体力との関連を柱に調査・測定・評価し、その問題点と改善策について検討します。
	研究分野：スポーツ心理学、スポーツ心理臨床、実験心理学
	研究内容のキーワード：アスリートへの心理的介入、自律訓練法、催眠技法、生理心理学的指標、エゴグラム
	スポーツ現場で起こる事象について心理学からのアプローチを試みます。主な領域は以下になります。 ①アスリート・スタッフへの心理支援 ②リラクセーション技法の効果と特徴 ③生理心理学・精神生理学的指標の検討

教員名	研究指導領域
★★ 教授 柳沢 香絵 博士（生活科学）	研究分野：スポーツ栄養学
	研究内容のキーワード：スポーツ栄養学、コンディショニング、競技パフォーマンス向上、ジュニアアスリート
	アスリートの競技パフォーマンスの向上および健康の維持、ならびにスポーツ・運動を安全に行うための栄養摂取方法および栄養指導法の開発に資する研究を行う。
	1. スポーツ栄養学的手法を用いたアスリートの競技パフォーマンスの向上およびコンディショニングの支援に関する研究 2. ジュニアアスリートを対象とした健全な発育と競技パフォーマンスの向上に資する栄養摂取および指導法に関する研究 3. スポーツ・運動実施時の安全性の確保に資する栄養摂取方法（例：熱中症予防のための食事や水分補給等）に関する研究

（健康スポーツ医科学コース）

教員名	研究指導領域
★★ 准教授 阿藤 聡 博士（スポーツ健康科学）	研究分野：トレーニング科学、運動生理学、骨格筋生理学
	研究内容のキーワード：レジスタンストレーニング、筋肥大、タンパク質代謝、多核体
	運動（筋収縮）による骨格筋の量・機能の可塑性機構、特にレジスタンストレーニング（いわゆる筋トレ）による骨格筋量の改善メカニズムについて分子・細胞レベルで理解することを目指して、実験動物や培養細胞など生物学的実験手法と研究グループで確立した実験動物のレジスタンストレーニングモデルを用いて研究を行っています。また、研究成果をアスリートの競技力向上へ利活用することや、加齢に伴う骨格筋量・機能低下（サルコペニア）の改善方法へ応用するための研究についても展開しています。修士課程では研究に必要な実験技術の習得、研究分野を理解するための論文読解力、データの処理・理解、実験により取得したデータを考察して新規の知見として論文化する為の能力を身に付けることを目指します。
★★ 教授 岡田 隆 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、スポーツ整形外科学、アスレティックリハビリテーション
	研究内容のキーワード：筋力トレーニング、筋肥大、筋腱複合体、除脂肪、減量、スポーツ外傷・障害、動的関節制御、腰痛、椎間板変性、リハビリ、睡眠、体幹筋、ボディビル、柔道
	1. トレーニング科学領域
	① 限局的な筋領域に効果的なトレーニング方法の開発
	・ 領域特異的および長軸区画的な筋活動に関する研究
	・ 対象筋の筋活動を増強する内部意識集中に関する研究
	・ 体幹深部筋のトレーニング方法の開発
	② 高い筋出力を可能にする神経生理学的メカニズムの探索
	③ 筋と腱の関係が形態および機能に及ぼす影響に関する研究
	③ 効果的な体脂肪除去方法（除脂肪）の開発
	④ 睡眠と筋力トレーニングおよび除脂肪に関する研究 など
	2. スポーツ整形外科学、アスレティックリハビリテーション領域
	① 腰痛、椎間板変性
	② 主動筋と拮抗筋による関節の動的制御 など

教員名	研究指導領域
★★ 教授 岡本 孝信 博士（人間科学）	研究分野：運動生理学、健康生理学、予防体育学、健康運動学、健康増進学
	研究内容のキーワード：サクセスフルエイジング、ウェルビーイング、健康寿命、座位行動、ストレス、動脈硬化、認知症、サルコペニア、ヘルスプロモーション
	若年者から高齢者に至る全ての年代が生涯健康であることを目的に、心血管疾患、介護および認知症を総合的に予防する“総合型生活習慣病予防”を目指した研究を推進します。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 総合型生活習慣病予防を目指したレジスタンス運動および有酸素運動法の開発 ② 健康増進効果を高めるポリフェノール摂取法の検討 ③ 骨格筋電気刺激トレーニングの健康増進効果の解明 ④ 筋、呼吸循環および認知機能の改善に向けた健康増進プログラムの開発 ⑤ 体力、呼吸循環および認知機能の加齢変化の関連探索 ⑥ 長時間座位やストレス誘発性動脈機能障害および認知機能低下予防法の開発
★★ 教授 奥田 拓史 博士（医学）	研究分野：スポーツ医学、ゲノム医学
	研究内容のキーワード：腎臓内科、遺伝統計学、GWAS、救急医学、医学教育、プライマリケア、Performing Arts Medicine（演奏芸術医学）、相撲、柔道
	スポーツという切り口から、音楽を始めとした舞台芸術もスポーツとして捉え、様々な事象の解明を目指します。当たり前と思っていることが、実は科学的に立証されていないことは意外に多いです。当たり前にやっていること、慣例として行われていることに、「なぜだろう」という疑問を持つのが研究の第一歩です。素朴な問いでもいいので、「なぜ」という気持ちを大切に、研究を進めていきましょう。各位の「なぜ？」を、Research Questionにするところから、始めましょう。新設の研究室のため、遂行中のテーマはありません。だからこそ、あらゆるテーマを研究課題として設定できます。研究指導者が興味をもっている分野は、下記の通りですが、大学院生自身の関心に基づく研究計画の提案も歓迎します。 ① スポーツによる腎機能への影響 ② 腎不全患者におけるスポーツ ③ スポーツと遺伝 ④ 音楽を運動という側面から捉えた研究 ⑤ 舞台芸術や対人競技における緊張について
★★ 准教授 城所 哲宏 博士（教育学）	研究分野：発育発達学、運動疫学、公衆衛生学
	研究内容のキーワード：子ども、身体活動、座位活動、体力、生活習慣病、国際共同研究
	子どもを対象に、身体活動を通じた体力向上および生活習慣病予防に関する研究をしています。国内および海外における大規模コホート研究のデータを活用し、疫学的な手法を用いて研究を進めています。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 子どもにおける早期生活習慣病予防に関する研究 ② 子どもの身体活動・体力に関する国際共同研究 ③ 身体活動を促進させる環境づくりに関する研究

教員名	研究指導領域
★★ 准教授 鴻崎 香里奈 博士（体育科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ医学、栄養学
	研究内容のキーワード：筋損傷、筋肥大、末梢神経損傷、サルコペニア、神経筋接合部、筋電気刺激、栄養介入、ケトジェニックダイエット、スポーツ損傷、伸張性収縮、肉離れ、がん悪液質筋ジストロフィー、代謝、実験動物
	スポーツ損傷、加齢現象、疾患などの様々な要因が運動器の機能や構造へ及ぼす影響について検証をおこないます。実験動物（ラット・マウス）や培養細胞を用いた基礎研究、およびヒトを対象とした臨床研究の両方に対応可能です。実験動物や培養細胞による研究では、様々な実験手法の習得およびそれらを用いた実験研究を展開します。ヒトを対象とした研究においても、実験や測定に必要な手法の習得およびそれらを用いた介入実験や調査研究を展開します。研究テーマについては事前に相談した上で決定しますが、現在進行中のテーマは下記の通りです。 ・ 短期間の継続的なケトジェニックダイエットが運動器の機能および構造、全身代謝へもたらす影響を検証する ・ 筋ジストロフィーモデルマウスにおける神経・筋機能と構造異常を検証する ・ 運動誘発性筋損傷による神経損傷の作用機序を解明する ・ 培養筋細胞における特定遺伝子の発現変動が筋タンパク質代謝や構造へもたらす影響を検証する ・ がん悪液質モデル動物における神経の機能・構造変化を検証する 研究によって得られる成果は、幅広い年代を対象とした健康増進、およびスポーツ現場へ積極的に応用することを目指します。
★★ 教授 小林 正利 博士（医学）	研究分野：顕微解剖学、健康教育学
	研究内容のキーワード：骨格筋の組織化学、健康教育学、運動と糖、乳酸代謝
	健康維持・増進に関わる因子や環境について探索し検討しています。 ① 骨格筋の再生過程に関わる細胞の組織化学的検討 ② 運動と健康関連機能の検討
★★ 教授 齋藤 義信 博士（健康マネジメント学）	研究分野：スポーツ・身体活動の疫学、ヘルスプロモーション、健康スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：身体活動、疫学、公衆衛生、健康づくり、健康行動理論、エコロジカルモデル、身体活動支援環境、システムズ・アプローチ、普及と実装科学
	スポーツや身体活動を通じたヘルスプロモーションを計画・実践・評価・改善し、社会に普及・実装する「健康スポーツマネジメント」について研究します。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 安全で効果的なスポーツ・身体活動についての疫学研究 ② 公衆衛生やヘルスプロモーションの観点から、スポーツ・身体活動を普及推進するための研究
★★ 准教授 三瓶 舞紀子 博士（医学）	研究分野：社会疫学、精神保健、インターコンセプション
	研究内容のキーワード：社会疫学、健康の社会的決定要因、相対的格差、マルチレベル、精神・母子保健、動機づけ面接、インターコンセプション
	家族、地域社会など心理社会的環境がこどもや若年世代の心身の健康に与える影響やメカニズムや介入方法、妊娠前からの若年世代への早期介入の意義等について検討します。また、疫学や統計学の基礎を学びます。 ① 新型コロナウイルス感染症流行による子どもの食生活変化とその社会経済的要因及び行政連携の仕組み解明のための研究 ② 月経/基礎体温管理アプリを用いた女性のリプロダクティブヘルスとこころの健康及び社会的リスク要因に関する研究 ③ 産・周産期に異常があった産後女性の医療従事者からのインターコンセプションケアの認識と健康行動の実態に関する研究 ④ インターコンセプションケアの行動的リスクに関するアプリを用いた教育プログラムの開発

教員名	研究指導領域
★★ 教授 須永 美歌子 博士（医学）	研究分野：運動生理学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：月経周期、女性アスリート、コンディショニング、性差、エネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝）
	健康なからだを維持しながらパフォーマンスを向上させるためには、戦略的にトレーニングプログラムを構築し、コンディショニング方策を立てる必要があります。本研究室では、ヒトを対象にトレーニングや栄養摂取などの条件の違いが運動パフォーマンスやトレーニング効果に与える影響について運動生理学的手法を用いて分析し、スポーツ現場に還元することを目指して研究に取り組んでいます。特に性差や月経周期の影響に着目し、以下のような研究を行っています。
	① 月経周期を考慮したコンディショニング法の開発 ② 女性の形態的・生理的特性を考慮したトレーニングプログラムの検討 ③ 「女性アスリートの三主徴」の予防・改善に関する研究
★★ 准教授 田村 優樹 博士（学術）	研究分野：分子運動生理学、分子運動代謝学
	研究内容のキーワード：骨格筋、脂肪、メカノバイオロジー、ミトコンドリア、リソソーム、温熱刺激、サルコペニア、廃用性筋萎縮、トレーニング、リハビリテーション
	効果的なトレーニングやリハビリテーションの創出を見据え、分子生物学の手法を用いた基礎研究を実施しています。現在実施している研究課題は次の通りですが、大学院生自身の関心に基づく研究計画の提案も歓迎します。
	① 運動や不活動、老化、疾患などに伴う「細胞/器官/個体の適応」と「分子メカニズム」の解明 ② 物理療法の「生物医学的根拠の構築」と「新規適応症の探索」 ③ 新規栄養素材の「探索・有効性検証」と「トレーニング/リハビリテーションへの応用」
★★ 教授 津山 薫 博士（体育科学）	研究分野：発育発達
	研究内容のキーワード：子ども、中高齢者、アスリート、運動能力、トレーニング
	① 身体運動や生活習慣が体力に及ぼす影響 ② 子どもの体力と運動との関係 ③ 中高齢者の体力と運動との関係、などがおもな研究指導領域です。
★★ 教授 中里 浩一 博士（学術）	研究分野：スポーツ生理・生化学、基礎スポーツ医学
	研究内容のキーワード：加齢、筋損傷、筋肥大、筋萎縮、動物・細胞モデル、遺伝子多型、筋タンパク質合成、筋タンパク質分解、細胞外マトリックス
	力学的刺激を含む幅広い外的因子への筋骨格系組織（骨格筋、腱、靱帯など）の生理・生化学的応答あるいは適応を分子・細胞・組織レベルで検討していくことを主なテーマとします。スポーツ生理、トレーニング方法、スポーツ損傷、スポーツ医学など応用的な展開を常に意識して研究を進めていきます。特に分子レベルでの検討を中心とすることおよび自分自身で手を動かしてデータを出してもらうことを求めますので、本研究室を希望する学生は相当の時間と労力を使う覚悟が必要です。その代わり得られるものも十分にあると思います。具体的なテーマは以下のとおりです。
	① 実験モデル（動物・細胞）を用いた筋損傷発生および修復過程の分子メカニズムの解析 ② 実験モデル（動物・細胞）を用いた随意あるいは不随意での筋力トレーニングに対する骨格筋適応の分子メカニズムの解析 ③ 加齢あるいは全身炎症に伴う骨格筋萎縮のメカニズム解明とその克服 ④ ヒト遺伝子構造の多型性が筋骨格系組織に与える影響の基礎的検討

教員名	研究指導領域
★★ 教授 橋本 典生 博士（医学）	研究分野：医学
	研究内容のキーワード：サルコペニア、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、スポーツ喘息、呼吸機能
	慢性閉塞性肺疾患（COPD）の死亡リスク因子は身体活動性の低下でありサルコペニアが関与している。また、サルコペニアを合併することで呼吸困難感も増悪するため、サルコペニア合併に伴う身体活動性の低下や呼吸機能への影響を詳細に検討することが求められている。臨床研究において患者さんより各種パラメーターを測定することで、身体活動や呼吸機能低下の改善につながるリハビリテーションへと応用して行きたいと考えている。また、スポーツ喘息や熱中症予防に関しても興味を持っている。
	主な研究内容 ① COPDサルコペニアに対する運動療法の効果 ② 尿中エクソソームを用いたサルコペニアの診断の可能性 ③ 老人施設在住の高齢者の呼吸筋サルコペニアと誤嚥性肺炎の関連 ④ スポーツ喘息と血中のn-3系多価不飽和脂肪酸やn-6系多価不飽和脂肪酸の関連 ⑤ 頸部冷却の熱中症予防の可能性

（身体教育・健康教育コース）

教員名	研究指導領域
★ 教授 小泉 和史 博士（海洋科学）	研究分野：野外教育（海洋）、アクアスポーツ
	研究内容のキーワード：スクーバダイビング、水中スポーツ、野外教育
	アクアスポーツや野外活動などが研究領域になります。 指導者、教育者などにとっての疑問点から、現場において必要な以下のような研究課題について検討する。
	① スクーバダイビング、スキンドайビング、スノーケリングにおける教育的効果や指導の研究 ② フィンスイミングにおける分析や指導の研究 ③ 水中スポーツ（水中ラグビー、水中ホッケー、フリーダイビング等）の指導および研究 ④ 野外活動における救急法、救助法指導および危険生物の調査などリスク、クライシスマネージメントの研究 ⑤ 野外活動（海洋や山野のキャンプなど全般）と地球環境問題の研究 ⑥ 水を活用するスポーツ（アクアスポーツ）全般と生命教育の研究など多岐の分野が挙げられる。
★★ 教授 近藤 智靖 博士（体育科学）	研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：カリキュラム、体育授業研究、教材・教師
	① 体育科のカリキュラム論 ・体育の教育課程における目標に関する研究
	② 体育科の学習指導論 ・体育の教材に関する研究 ・教師行動に関する研究
	③ 体育授業研究 ・体育における学習成果に関する研究 ・児童生徒行動に関する研究
★★ 教授 鹿野 晶子 博士（体育科学）	研究分野：学校保健学、発育発達学
	研究内容のキーワード：子どものからだと心、養護教諭
	子どものからだと心、それを支える養護教諭をテーマとし、日常的には、子どものからだと心に関する学校教育現場等での野外調査に従事しながら研究をすすめている。
	主な研究領域は ① 養護教諭の職務と養護活動、保健室の機能 ② 学校保健 ③ 子どものからだと心の健康課題全般とする。

教員名	研究指導領域
★★ 教授 白旗 和也 博士（スポーツ健康科学）	研究分野：スポーツ教育学、教師教育学
	研究内容のキーワード：学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の授業づくり、教師の効力感を高めるためのコンサルテーション、幼児期・児童期における動きの獲得、開発途上国における体育支援
	学習指導要領に基づき、すべての児童生徒に豊かなスポーツライフを実現するための方策について、幼児、児童、生徒の立場から、または教師の立場から学校現場の実情に応じた研究を推進する。 ① 学習指導要領に基づいたカリキュラム論、学習指導論 ② 教師効力感に基づいた教師教育論、コンサルテーション方略 ③ 幼児期運動指針に基づいた幼児の運動遊びと動きの獲得 ④ 開発途上国における体育支援の方法
★★ 教授 鈴川 一宏 博士（医学） 博士（体育科学）	研究分野：ヘルスプロモーション、公衆衛生学
	研究内容のキーワード：子ども、生活習慣、運動習慣、行動体力、防衛体力、免疫、疲労、メンタルヘルス、ヘルスプロモーション、健康教育、学校保健
	保健体育教諭や養護教諭が取り組むべき、子ども（児童生徒）における規則正しい生活習慣、体育・スポーツや運動習慣の必要性、学校現場における保健活動、ヘルスプロモーションに関する研究等を研究指導領域とします。そのため、児童生徒を対象として、生活習慣や運動習慣、防衛体力（健康感、免疫能、メンタルヘルスなど）について調査を行い、以下について研究を行っていきます。 ① 児童生徒の生活習慣、運動習慣に関する研究 ② 児童生徒の行動体力と防衛体力に関する研究 ③ 児童生徒の健康管理・健康教育・健康対策に関する研究 ④ 児童生徒のストレスや疲労に関する研究 ⑤ 学校保健とヘルスプロモーションに関する研究 ⑥ 児童生徒と教員のメンタルヘルスに関する研究 ⑦ スポーツ・運動部活動と防衛体力に関する研究
★★ 准教授 鈴木 康介 博士（スポーツ科学）	研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：体育科教育学、スポーツ教育学、教材開発、運動指導
	(1) 体育科の学習指導に関する研究 ① 体育の授業づくり、教材づくり、教材構成に関する研究 ② 体育における運動指導に関する研究 ③ 学校における教科横断的な学びに関する研究 (2) 幼少期における運動指導に関する研究 ① 幼少期の子どもの動きに関する研究 ② 教育課程内・課程外における子ども（幼児・児童・生徒）の運動指導に関する研究
★★ 助教 田中 良 博士（体育科学）	研究分野：教育保健学、学校保健学、発育発達学
	研究内容のキーワード：子どもの健康、生活習慣、健康教育
	子どもの健康や生活習慣、生活環境の実態を把握しながら、子どもの健康に関連する学校環境や健康教育について研究活動を進めている。 主に、① 子どもの生活習慣と健康との関連、② 子どもの健康を改善する学校・教室環境、③ 中高生の健康行動と関わる健康教育等をテーマとしている。

教員名	研究指導領域
★ 教授 津田 博子 体育学修士	研究分野：舞踊学・舞踊教育学
	研究内容のキーワード：舞踊・教育・ダンス教材・イメージ・伝統芸能舞踊の歴史
	舞踊に関する教育学的研究 身体表現系方法学的研究 身体表現やダンスを用いた教育学的活動の効果に関する研究 比較舞踊の研究 等
★★ 准教授 寺岡 英晋 博士（教育学）	研究分野：スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：カリキュラム、教師行動、学習成果、評価、教師教育、国際協力、卓球
	学校体育・スポーツ活動が多様な教育課題の解決にどのように貢献できるかを探求することを主なテーマとしています。具体的には、以下のようなテーマが研究指導領域になります。
	①教師行動の測定と評価 ②児童生徒の社会・情意領域の学習成果を生み出すメカニズムの解明 ③教師の資質向上を図る教育プログラムの開発と評価 ④カリキュラム分析と国際比較 ⑤ 体育・スポーツを通じた国際協力に関わる研究 上記以外でも、教育学的研究に関連するキーワードに該当するテーマも歓迎します。
★★ 教授 野井 真吾 博士（体育科学）	研究分野：教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学
	研究内容のキーワード：教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学、子どものからだ、子どもの体力、子どもの健康
	キーワードは、「子ども」「からだ」「心」「体力」「健康」「元気」「生活」。
	研究領域は、教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学。具体的には、子どものからだ、心、体力、健康、元気、生活が「どこかおかしい」、「ちょっと気になる」、「なんか心配」といった保育・教育現場の教諭や養護教諭、さらには、子育て中のお母さん、お父さんの“実感”をたよりに、子どものからだにこだわってその“事実”を明らかにし、“実体”を追究する活動（問題を発見するための研究）と、発見された健康課題を改善し、子どもの元気を具現化するための活動（問題を解決するための研究）とに努めている。
体育科学学位プログラム ★ 体育実践学位プログラム ★★ 教授 三宅 良輔 博士（医学）	研究分野：複合領域
	研究内容のキーワード：体操、体づくり運動、健康運動、運動指導論、成年・老年期の体育
	健康づくりを目的とした「体操」の実践的な研究活動を行う。子どもから高齢者までを対象に、それぞれの年齢、体力、健康状態に合わせた健康運動を研究する。
	① 幼児の運動あそび、親子体操の研究 ② 学校体育における「体づくり運動」、「集団演技」に関する教材研究 ③ 成年・老年期の健康づくりのための「体操」に関する研究 ④ 体操指導に関する研究

教員名	研究指導領域
★★ 准教授 村井 敬太郎 博士（体育科学）	研究分野：特別支援教育学，知的障害教育学，体育学
	研究内容のキーワード：知的障害，特別支援学校（知的障害），体育科，保健体育科の授業，子どもの運動支援，教員・支援員支援
	特別支援学校（知的障害）や児童発達支援の先生方と協働し，主に学校等の現場において特別支援学校（知的障害）における体育科，保健体育科の授業づくりや児童発達支援における子どもの運動遊びに関する実践研究に取り組んでいます．主な研究領域は次の通りです．
	1.特別支援学校（知的障害）体育科，保健体育科の学習支援に関する研究 1)体育科，保健体育科の授業づくり、教材づくり、教員支援等に関する研究 2)体育科，保健体育科等における子どもへの運動支援に関する研究 3)特別支援学校（知的障害）における体育科，保健体育科の教育課程に関する研究 2.知的障害のある子ども（主に幼少児）への運動支援に関する研究 1)知的障害のある子ども（主に幼少児）の体の動きの向上に関する実践研究 2)知的障害のある子ども（主に幼少児）の日常生活動作支援に関する実践研究

■コーチング科学学位プログラム、コーチング実践学位プログラム

教員名	研究指導領域
★★ 教授 青柳 徹 修士（体育学）	研究分野：コーチング学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：心・技・体
	コーチング・トレーニング・運動学習とパフォーマンスに関する研究 本研究室では、競技力の向上を目的としたトレーニングの体系化および幅広い知識を基に指導を行う実践的な指導者の育成を狙いとする。そして、競技（運動）パフォーマンスはヒトの学習によって生じることを理解して心理学・生理学・バイオメカニクスの手法を用いた実践的研究を行う。
★★ 教授 伊藤 雅充 博士（学術）	研究分野：コーチング学、コーチ教育
	研究内容のキーワード：アスリートセンタードコーチング、コーチ教育、コーチデベロッパー
	アスリート・センタード・コーチングをキーワードとして学習者中心の指導のあり方を研究する。研究テーマはコーチングのWHAT（アスリートの競技力向上等）ではなく、コーチングのHOWである。研究方法として質的研究および量的研究、あるいはその両方を組み合わせた混合研究法を採用する。コーチングスキルの向上を目指すコーチは、アクションリサーチを実施することを勧める。
★★ 准教授 岩原 文彦 博士（体育科学）	研究分野：コーチング学
	研究内容のキーワード：コーチング、コーチングスタッフ教育、ハイパフォーマンスコーチング
	より効果的なコーチングを行うための考え方、パフォーマンス分析等によって得られた科学的データの解釈および活用、トレーニングメニューや年間スケジュールの作成および評価等を中心に検討を行っていきます。学際的な観点からコーチング学を捉え実践的に研究を進めます。

教員名	研究指導領域
★★ 教授 大石 健二 博士（体育科学）	研究分野：体育測定評価学、スポーツパフォーマンス分析、教育工学、情報工学
	研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス分析、ゲームパフォーマンス分析、戦術、戦略、統計学、確率論、評価項目（測定項目）の検討と開発、分析方法の検討と開発、ICT教育、STEAM教育、ウェアラブルデバイス、GIGAスクール、DX
	主な研究テーマは、「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」と「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」の2 つになります。両研究領域共通として数値データを用い、統計学や確率論を基礎とした研究となります。 ①「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」 生体ウェアラブルデバイスや小型ビデオカメラの普及により、選手個人の移動（距離・速度）データや心拍数データに加え、パスやシュート等のスポーツパフォーマンスを簡便に数値化することが可能となりました。そのため、GPS データや画像データを用いスポーツを数値化し、勝敗と関連がある項目の検討や今後の試合予測が研究テーマとなります。これらの研究結果から、対象チームのトレーニング内容（課題）を考えます。現在、研究対象とするスポーツ種目の制限を設けてはいませんが、サッカー、ハンドボール、バレーボール、水球など球技種目を主としています。 ②「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」 令和6年度からの高等学校 DX 加速化推進事業により、高等学校における体育授業をはじめ部活動でのICT活用が飛躍的に拡大しています。ただ一方では、これまでの体育や部活動の実施方法を踏襲している学校も散見されます。このように、コロナ禍におけるGIGAスクール構想事業によりデバイスの普及は全国に及んだが、ICTの利用については学校間や地域間において格差が生じ始めています。そこで、本研究では高等学校 DX 加速化推進事業採択学校と共同し、STEAM教育コンテンツの開発ならびに体育をはじめとする部活動におけるICT活用による効果検証を実施します。これらの研究結果から、新しい体育授業や部活動における指導方法(コーチング方法)の提案をします。
★★ 教授 大本 洋嗣 修士（体育学）	研究分野：コーチング学
	研究内容のキーワード：水球、水泳、コーチング
	アスリートの競技力向上のためにコーチが果たすべき役割についての研究を行う。日々変化する新しいコーチング手法について、競技スポーツ現場において実践的なアプローチと評価を行い理想のコーチングを探る。
★★ 教授 小嶋 新太 博士（医学）	研究分野：コーチング学、コーチ教育
	研究内容のキーワード：格闘技、柔道、コーチング
	・柔道競技における効果的な指導法に関する研究 ・競技力向上を目的としたトレーニング方法に関する研究 ・選手のコンディショニングおよび心理サポートに関する研究
コーチング科学学位プログラム ★ コーチング実践学位プログラム ★★ 准教授 小林 史明 修士（体育科学）	研究分野：陸上競技
	研究内容のキーワード：陸上競技、棒高跳、バイオメカニクス
	陸上競技に関わるコーチングおよび競技力向上への体力的、技術的なトレーニング方法の検討、実践研究。
★★ 教授 齋藤 一雄 博士（医学）	研究分野：複合領域
	研究内容のキーワード：技力向上（相撲）、身体組成、筋力
	対人競技に関わるコーチングおよび競技力向上への体力的、技術的、心理的なトレーニング方法の検討、実践研究。

教員名	研究指導領域
★★ 准教授 佐良土 茂樹 博士（哲学）	研究分野：コーチング学
	研究内容のキーワード：コーチング学原論、コーチング哲学、コーチ育成、バスケットボール、マインドスポーツ（将棋）
	コーチングはそもそもどのような営みであるのかを考える原論の研究、コーチが持っている哲学についての研究、および、コーチの学びを中心とするコーチ育成やその学びを支援するコーチデベロッパーについての研究を行っています。また、近年はコーチングに関わる概念、さまざまな思想に基づいたコーチングのあり方、コーチの生き方についても研究を進めています。基本的にスポーツ全般を研究対象としていますが、特にバスケットボールに関する研究を専門としています。
(コーチング科学学位プログラムのみ) ★★ 教授 杉田 正明 博士（学術）	研究分野：コーチング学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：スポーツ科学を活用したコーチング、トレーニング科学、体力科学、コンディショニング、パフォーマンス分析
	運動パフォーマンスを高めるコーチング、トレーニングに役立つ実践的なスポーツ科学的研究を行っている。 競技力向上に導くコーチングに関するトレーニングやコンディショニングの面や様々な競技選手のパフォーマンス分析や調査を行っている。
★★ 准教授 高井 秀明 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ心理学
	研究内容のキーワード：スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング、リラクセーション
	アスリートの競技力向上や実力発揮を目指した、スポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングに関する実践的研究に取り組んでいます。特に、ストレスの対処方略として活用されている自律訓練法や漸進的弛緩法、バイオフィードバック法などのリラクセーション技法の効果について検討しています。
★★ 教授 南部 さおり 博士（医学）	研究分野：医学、法学、心理学、社会学、社会科学複合分野
	研究内容のキーワード：児童虐待、体罰、部活動の安全指導、学校事故、少年非行
	スポーツ危機管理学 スポーツにおける安全指導、スポーツ事故の原因分析と再発防止、体罰・パワハラ・暴言指導に関する研究、学校部活動のあり方に関する研究、学校体育における苦手克服・楽しい体育・安全指導、スポーツ指導者の資質向上、スポーツ活動が少年非行と犯罪に及ぼす影響など学校安全に関する研究 いじめ、ブラック部活動、教員の不適切指導、教育現場でのハラスメント、対教師暴力、不登校問題など 児童虐待、親子関係が子の社会化に及ぼす影響に関する研究
★★ 教授 西山 哲成 博士（医学）	研究分野：トレーニング科学、バイオメカニクス、コーチング科学、ハイパフォーマンスサポート
	研究内容のキーワード：パフォーマンス向上、バイオメカニクス、生理学、技術・体力評価、科学サポート、ハイパフォーマンスサポート、コーチング、スポーツ支援システム、自転車競技
	① スポーツパフォーマンスを高めるための技術、体力評価、およびそのトレーニング、コーチング方法に関する研究を扱う。
	② バイオメカニクス、および生理学的手法による科学サポート、指導に役立つ基礎的・実践的研究を対象とする。 ③ 指導またはサポート対象となる集団・個人のパフォーマンス向上を目的として、コーチング、医・科学支援、組織運営等を統合したスポーツ支援システムの構築および実践に関する研究を扱う。

教員名	研究指導領域
コーチング科学学位プログラム ★ コーチング実践学位プログラム ★★ 教授 根本 研 修士（体育科学）	研究分野： コーチング学、コーチ教育
	研究内容のキーワード： コーチング学、チームビルディング、パフォーマンス分析
	より効果的なコーチング実践を探求し、現場で創出した事象を対象にしたコーチングの研究を行う。競技力向上の課題に対して、実際のゲームでのパフォーマンス発揮を考えた実践的な研究課題を見つけ出し、現場に有益なパフォーマンス向上の為のプロセスに向き合い研究を進めていく。
	<研究課題> ① コーチ育成に関する研究 ② チーム文化形成に関する研究 ③ チームビルディングに関する研究 ④ 戦略・戦術に関する実践研究
★ 教授 畠田 好章 修士（体育学）	研究分野：複合領域
	研究内容のキーワード：器械運動、体操競技、競技力向上
	体操競技における競技力向上のための技術的分析や実践的なコーチング、トレーニング方法について研究を進める
★ 教授 松本 慎吾 修士（体育科学）	研究分野：複合領域
	研究内容のキーワード：レスリング、コーチング、減量、トレーニング
	・レスリング競技者の体力特性・筋力に関する研究・コンディショニング・メディカルチェック ・減量（急速減量）と生理機能への影響・遺伝子多型・バイオマーカーと競技特性 ・スポーツ栄養教育・オリンピックの歴史
コーチング科学学位プログラム ★ コーチング実践学位プログラム ★★ 教授 三宅 良輔 博士（医学）	研究分野：複合領域
	研究内容のキーワード：体操、体づくり運動、健康運動、運動指導論、成年・老年期の体育
	健康づくりを目的とした「体操」の実践的な研究活動を行う。子どもから高齢者までを対象に、それぞれの年齢、体力、健康状態に合わせた健康運動を研究する。
	① 幼児の運動あそび、親子体操の研究
	② 学校体育における「体づくり運動」、「集団演技」に関する教材研究
	③ 成年・老年期の健康づくりのための「体操」に関する研究
	④ 体操指導に関する研究